

北海道地区研究会報告

静修女子大学 中道仁美

北海道地区では、昨年6月に地区研究会を開催したときに、できれば同年中の12月頃に研究会を再度開くことにしていました。11月の大会時に、話題提供者として、高知大学より北見市近郊に内地留学していらっしゃる大野会員にお願いし、12月17日に開催することができました。

北海道は地理的な広がりもあり、なるべく多くの会員に出席いただきたいので、交通の便の良い北海道大学文学部研究室を、三谷会員にお世話していただきました。一般的関心の高い話題でもあり、なるべく多くの方々に出席していただくこと、一部の北海道社会学会員や職場の同僚、大学院生等にも呼びかけましたが、年末の忘年会シーズンで研究会が重複しており、結果的には、会員9名、非会員2名の合計11名の出席でした。

午後3時から6時まで、標題『西表島の自然と人間－「共存」の可能性を求めて－』を中心に、貴重なスライドを見ながらお話しいただいた後で、質疑応答が行なわれました。沖縄本島についてのスライドもあり、対馬ヤマネコや北海道のエゾシカの話が提供され、自然と人間がいかに共存するべきかについて具体的な提案がなされました。議論も、国や都道府県の方策の現状と今後の具体的対策も含めて、活発かつ有意義なものでした。

研究会終了後、有志で大野会員の歓迎会や忘年会を兼ねて懇親会を持ちました。大野会員の手土産のお酒（高知大会出席者なら皆さんご存じのお酒です）を頂戴しながら、新聞に大きく掲載された昨夏の白樫会員の利尻島遭難事件の顛末（大野会員が同行）、つい最近大野会員と白樫会員のお二人で行われた宮崎調査のことなど、この席でしか聴けないことに話が咲きました。

なお、大野会員については2月に北海道社会学会で話題提供されることになっています。ただ、冬の北海道、土曜日に国立大学で開催することは、避けたいものです。当日（12月17日土曜日）は暖房が入らず、出席者全員オーバーを着込んで、3時間を耐えたというわけです。世話人として大変申し訳ありませんでした。再度、お詫び申し上げます。